

# 能勢町スポーツ施設個別施設計画

令和5年4月  
能勢町教育委員会

## 目 次

1	能勢町スポーツ施設個別施設計画策定について .....	1
(1)	背景と目的	
(2)	本計画の位置付け	
(3)	計画期間	
(4)	対象施設	
2	スポーツ施設の目指すべき姿 .....	2
(1)	目指すべき姿の考え方	
(2)	目指すべき姿	
3	スポーツ施設の実態と今後 .....	3
(1)	施設の概要	
(2)	人口の見通し	
(3)	利用者数の推移	
(4)	施設関連経費の推移	
(5)	今後の維持・更新コスト	
4	スポーツ施設整備の基本的方針 .....	8
5	長寿命化の実施計画 .....	9
6	個別施設計画の継続的運用方針 .....	9

## 1 能勢町スポーツ施設個別施設計画策定について

### (1) 背景と目的

本町の既存スポーツ施設は、町民の健康増進と住民福祉のための中心施設として多くの住民に利用され、その振興に大きな役割を果たしてきました。いずれの施設も建設後 30 年を超え大規模改修の時期を迎える施設です。

人口減少や少子高齢化が進行する中で、どのようにして適正に施設を維持していくかが課題となっており、また、時代に応じた利便性や機能の向上などにも対応する必要があります。

本町の社会体育活動の拠点でもあるスポーツ施設の機能の維持・向上を目指し、施設を取り巻く状況を把握・分析するとともに、住民のニーズを捉え、計画的かつ効率的な維持管理や施設の利活用を検討するため、能勢町公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）に基づく施設類型別の個別計画（以下「個別施設計画」という。）として本計画を策定するものです。

### (2) 本計画の位置付け

本計画は、第 6 次能勢町総合計画（以下「総合計画」という。）を補完する総合管理計画の下位計画として位置付けられるものです。



### (3) 計画期間

本計画の期間は、上位計画である総合管理計画との整合性を図るため、令和 5 年度（2023 年度）から令和 28 年度（2046 年度）までの 24 年間とし、総合管理計画の見直しに合わせ、内容を見直すことを基本とします。

### (4) 対象施設

本計画の対象は下記の既存スポーツ施設とします。

- ・ 能勢町営名月グラウンド（以下「名月グラウンド」という。）
- ・ 能勢町 B & G 海洋センター（以下「海洋センター」という。）

## 2 スポーツ施設の目指すべき姿

### (1) 目指すべき姿の考え方

本町のスポーツ施設は、社会体育活動の拠点として今後も活用されていくものです。

特に超高齢化社会を迎え、町民の健康寿命を延ばすためには、地域におけるスポーツ環境を充実していかなければなりません。その中心となる名月グラウンドと海洋センターの管理・運営は重要です。

このような状況を踏まえ、上位計画である総合計画の分野別計画「生涯活躍できる社会の実現」に掲げられている施策の方向性に基づき、スポーツ施設の目指すべき姿を定めます。

#### 施策の方向性

#### 総合計画 第5章：分野別計画

#### 12 生涯活躍できる社会の実現 「施策の方向性」(抜粋)

##### 生きがいづくりと社会参加の支援

重点化

- ・ 誰もが生きがいを持って社会参加や地域交流を進められるよう、関係機関等と連携を深めながら支援を行います。また、多様な学びの活動をコーディネートする人材育成や連携に取り組めます。
- ・ 高齢者の活躍による地域づくりの活動を多様な世代による交流の場へと発展させ、高齢者の豊かな経験や豊富な知識を次世代へ継承します。

##### 生涯学習の推進

重点化

- ・ 価値観や関心に基づき、生涯にわたって自由に多様な学びに取り組めるよう、学びの場の提供・確保、学習に関する相談・情報提供、学習成果の活用などに努めます。
- ・ 個人や団体活動などを通じた地域・世代間の継続的な交流を促進します。
- ・ インターネットやコンピューターを使える人と使えない人との間に生じる格差の解消に向けて ICT 等の知識や教養を高めるための学習機会を充実します。

##### スポーツの推進

重点化

- ・ 住民がそれぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じてスポーツに親しむことができるよう、地域におけるスポーツ環境の充実やスポーツ活動の支援を行います。
- ・ 関係する団体と連携を図りながらスポーツイベントなどを開催し、スポーツの振興を図ります。

## (2) 目指すべき姿

町民それぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じたスポーツ活動を推進するため、その拠点となる名月グラウンドと海洋センターの定期的な点検・修繕・改修など計画的な施設の維持管理・更新を実施します。

特に、海洋センターは町民の総意により誘致した施設であるため、老朽化を起因に取り壊すのではなく、公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団の「地域海洋センター修繕助成」を活用して施設を改修し、指定管理業者のノウハウが生かせるよう計画的な施設の維持管理・更新を目指します。

## 3 スポーツ施設の実態と今後

### (1) 施設の概要

本町のスポーツ施設の概要は以下のとおりです。

No.	施設名	区 分	整備年	経過年数	構 造	面 積 (㎡)	用 途	運営形態	備 考
1	能勢町営 名月グラウンド	グラウンド	S56	41 年	軽量鉄骨組立 構造平屋建	134.9	管理室 器具庫 便所 控室	指定管理	
2	能勢町B&G 海洋センター	体育館 プール	H5	30 年	鉄筋コンクリート造 軽量鉄骨組立 構造	2,798	体育館 プール	指定管理	

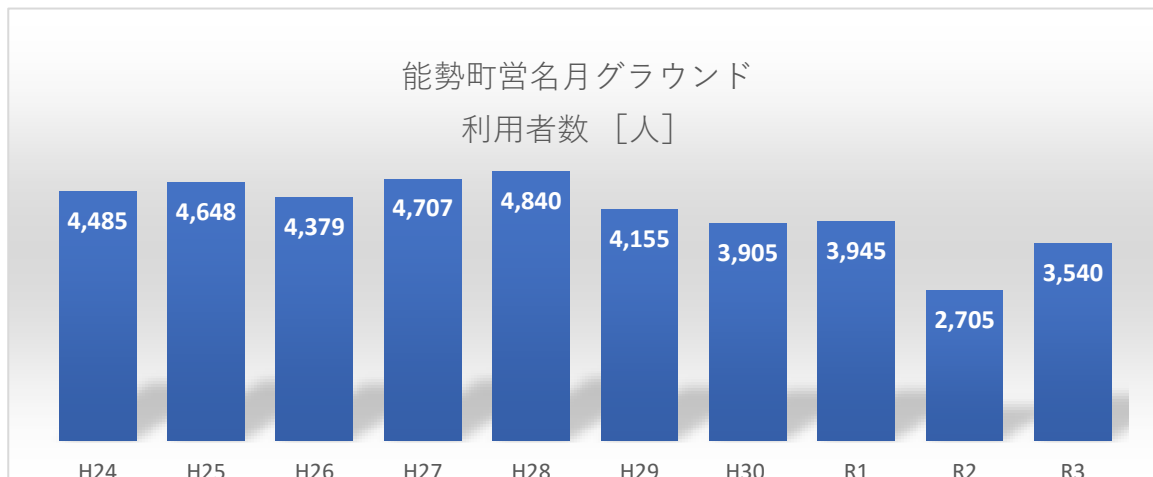
### (2) 人口の見通し

人口減少によって少子高齢化が進むと生産年齢人口（15歳～64歳）が減少し、本町の主要な歳入である税収も減少します。そこで、人口減少に歯止めをかけ、将来に向けた計画的なまちづくりを展望するために「能勢町人口ビジョン」を平成28年度に策定しました。この人口ビジョンでは、同時期に策定した「能勢町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策の推移により、合計特殊出生率の上昇とともに社会減に歯止めをかけ、令和42年度の人口を5,275人とする目標を提示しています。

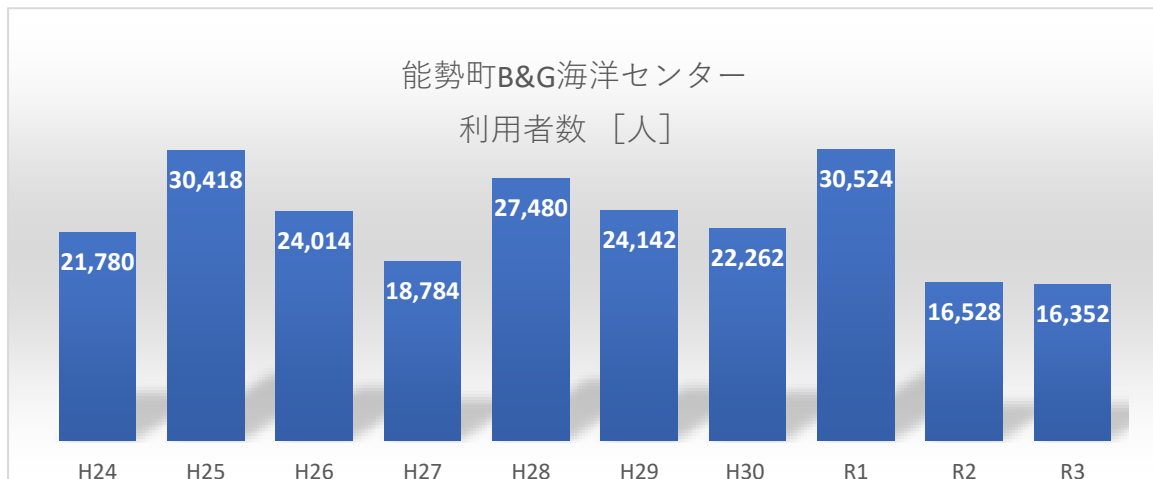


### (3) 利用者数の推移

○名月グラウンドの利用者は年間平均約 4,000 人で推移しています。今後もこの傾向が続くと予想されます。



○海洋センターの利用者は年間平均 25,000 人で推移しています（R2・R3は新型コロナウイルスの影響による減少）。今後もこの傾向が続くと予想されます。



#### (4) 施設関連経費の推移

○名月グラウンドは建設後、令和4年度末で41年が経過します。

平成28年度より指定管理者による管理運営を行っています。

施設管理費は、委託料などを主とした費用で、年間150万円で推移しています。

既に大規模改修の時期を大幅に経過し、現在、管理棟・バックネットの老朽化及び法面の土砂崩れが見受けられます。

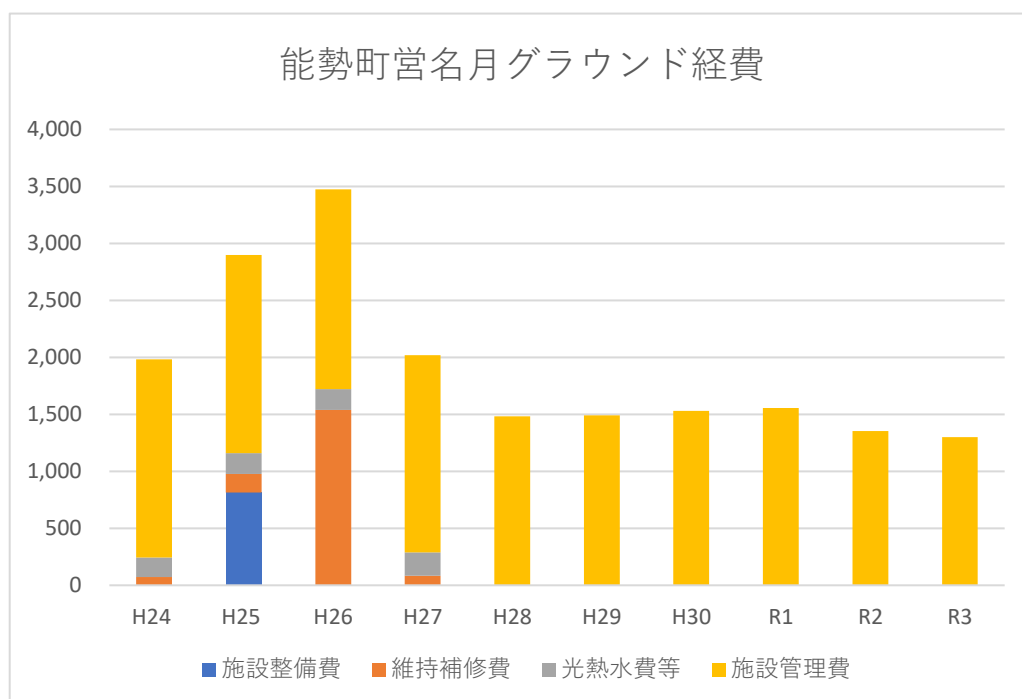
今後は、施設の老朽化診断を行うとともに、それに基づいた計画的な施設改修に取り組んでいくことになります。

※平成28年度以降の維持補修費・光熱水費等は海洋センター経費に含む。

●能勢町営名月グラウンド

単位：千円

区分\年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
施設整備費	0	814	0	0	0	0	0	0	0	0
維持補修費	73	163	1,538	84	0	0	0	0	0	0
光熱水費等	171	183	184	206	0	0	0	0	0	0
施設管理費	1,738	1,738	1,751	1,728	1,482	1,490	1,531	1,557	1,353	1,300
合計	1,982	2,898	3,473	2,018	1,482	1,490	1,531	1,557	1,353	1,300



○海洋センターは、建設後、令和4年度末で30年が経過します。

平成28年度より指定管理者による管理運営を行っています。

施設管理費は、委託料などを主とした費用で、年間1,100万円で推移しています。

維持補修費は、年度の修繕個所によって費用に差はありますが、年間50万円程度で推移しています。

光熱水費は、センターを運営するうえで必要不可欠な経費で、電気、水道に係る経費は、毎年約300万円で推移しています。

現在の施設を適正に運営していくために必要な施設管理費は、施設点検に係る委託料などを主とした費用で、年間約1,000万円で推移しています。

光熱水費・施設管理費は、今後も概ね同額程度の費用になることが見込まれます。

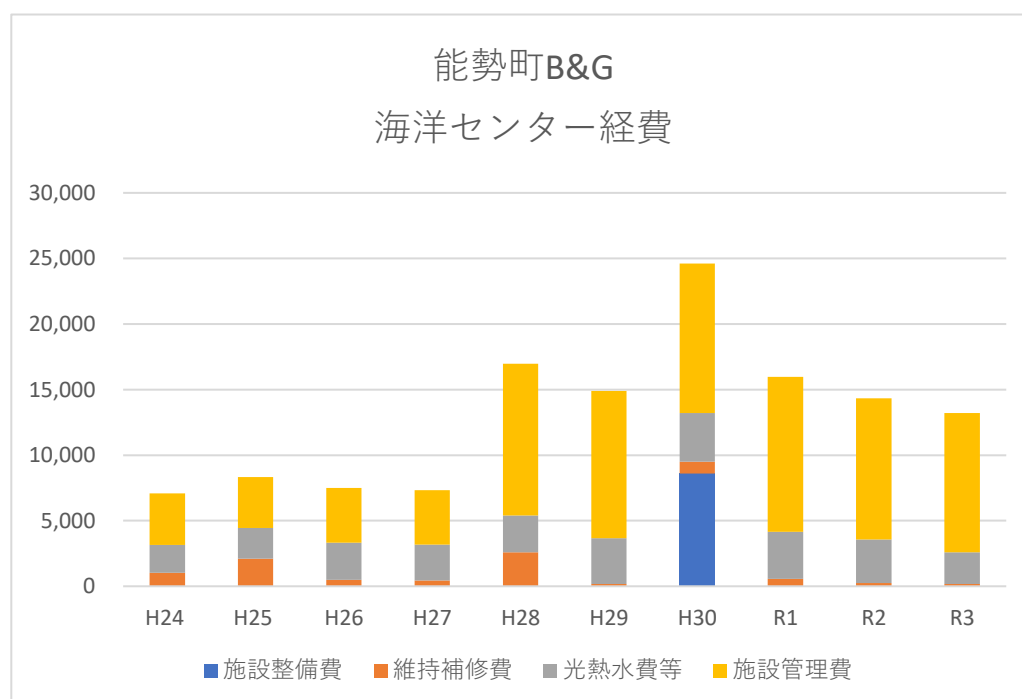
現在、大規模改修の時期を迎えプールは老朽化のため使用できない状況です。

今後は、施設の老朽化診断を行うとともに、それに基づいた計画的な改修を検討することになります。

●能勢町B&G海洋センター

単位：千円

区分\年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
施設整備費	0	0	0	0	0	0	8,608	0	0	0
維持補修費	1,028	2,093	480	451	2,585	164	888	556	254	185
光熱水費等	2,122	2,348	2,853	2,721	2,805	3,498	3,715	3,593	3,315	2,401
施設管理費	3,945	3,895	4,175	4,154	11,571	11,237	11,389	11,826	10,762	10,627
合計	7,094	8,337	7,507	7,326	16,960	14,900	24,600	15,975	14,330	13,212





《施設関連経費の区分内容》

- 施設整備費・・・施設整備に係る費用（工事請負費、設計業務委託料等）
- 維持補修費・・・部分的な損傷や劣化の修繕に係る費用（修繕費、補修用原材料費）
- 光熱水費等・・・日常の施設運営に不可欠な費用（光熱水費、燃料費）
- 施設管理費・・・施設や設備の清掃及び点検等、施設を安全、清潔に保つための費用（手数料、保険料、委託料）

(5) 今後の維持・更新コスト

総合管理計画「第2章. 2. 5 公共施設等の維持管理・修繕・更新等に係る中長期的な経費の見込」に基づき今後の維持管理・更新コストを試算することとします。

《設定条件》

更新費用・・・全国自治協会建物災害共済基準額

試算の考え方

	内容	従来型 (築後)	長寿命化型 (築後)	費用
更新	目標対象年数既存の建物の建替え更新を言います。	60 年	80 年	更新費用の 100%
大規模改修	建物の使用年数を延命させるための大規模な改修事業を指します。	30 年	40 年	更新費用の 60%
中規模改修	一定の部位における老朽化対策のための改修・更新事業のことを指します。	-	20 年 60 年	更新費用の 20%

【試 算】

●能勢町営名月グラウンド 従来更新費用と長寿命化費用の比較

更新費用 22,400,000 円

(単位：千円)

区分 \ 築後	40年	60年	80年	合計	従来型による更新 (築後60年) までの 費用比較
従来型	17,248	22,400		39,648	39,648
長寿命化型	17,920	4,480	22,400	44,800	22,400
差額					17,248

※これまで大規模改修・中規模改修ともに実施していないため、築後40年の改修費用を次のとおり試算します。

- ・従来型…築後30年後の改修費用（更新費用の60%）＋築後31年～40年間の改修費用（1.67%（更新費用の年率）×10年）  
 $60\% + 1.67\% \times 10 \text{年} \div 77\%$   $22,400,000 \text{円} \times 0.77 = 17,248,000 \text{円}$
- ・長寿命化型…築後20年後の改修費用（更新費用の20%）＋築後40年の改修費用（更新費用の60%）  
 $20\% + 60\% = 80\%$   $22,400,000 \text{円} \times 0.8 = 17,920,000 \text{円}$

○名月グラウンドは建設後 41 年を迎えますが、これまで大きな改修は実施していません。このことを踏まえ、上表のとおり、速やかに長寿命化型で大規模改修を実施することとした場合、従来型の施設寿命である 60 年目での費用を比較すると、約 43.5% の節減効果が見込まれます。

#### ●能勢町 B & G 町海洋センター 従来更新費用と長寿命化費用の比較

更新費用 525,772,000 円

						(単位：千円)
築 区分	30年	40年	60年	80年	合計	従来型による更新 (築後60年) までの 費用比較
従来型	315,463	—	525,772		841,235	841,235
長寿命化型	105,154	315,463	105,154	525,772	1,051,543	525,771
差額						315,464

○海洋センターは建設後 30 年を迎えますが、これまで大きな改修は実施していません。このことを踏まえ、上表のとおり、速やかに長寿命化型で中規模改修を実施することとした場合、従来型の施設寿命である 60 年目での費用を比較すると、約 37.5% の節減効果が見込まれます。

## 4 スポーツ施設整備の基本的方針

これから施設の長寿命化に取り組むに当たり、計画的な改修等による経費節減と予算の平準化を念頭に、基本的な方針を次のように定めます。

### ①整備水準の設定項目

計画的な施設整備を実施していくために以下の項目について、劣化状況を定期的に調査する。

- ①安全面……建物が安全に使用できるように調査する項目
- ②機能面……設備が適切に使用できるように調査する項目

①安全面	・内装 ・外装 ・防災機能 ・防災対策 ・事故防止対策
②機能面	・空調設備 ・給排水等設備 ・トイレ ・トレーニング器具

## ②設定項目点検結果の活用

施設の点検結果を把握し、今後の老朽化を予測し、本計画に基づく改修内容に反映させる。また、軽微な修繕で対応できる場合は、速やかに修繕を行い、破損状況を最小限に抑えていく。

## 5 長寿命化の実施計画

今後、上記「4②設定項目点検結果の活用」をもとに、優先順位を付け、計画性をもって、施設改修を効果的・効率的に実施していきます。

## 6 個別施設計画の継続的運用方針

効率的かつ効果的な施設整備及び適正な施設管理を実施していくためには、施設の点検結果を踏まえた計画に基づき、随時の軽微修繕を含めた日常的な維持管理を行い、施設における整備内容の見直しや課題を整理し、次の計画に反映していくことが大切です。

個別施設計画を継続的に運用していく方針を、次のように定めます。

### ①施設管理の整備と活用

日常点検や法定点検の結果をもとに、施設の状態等を把握し、激しい劣化・損傷が生じないように予防保全に努める。

### ②推進体制等の整備

本計画を継続的に運用するために、総合管理計画の方針を踏まえつつ、町教育委員会事務局が主となり、技術的知見を有する関係部署との協議、調整を行う。

### ③計画の見直し

本計画は、総合管理計画の見直しに合わせて見直すことを基本に、令和8年度(2026年度)、令和18年度(2036年度)を目安とし、その時点での施設の状況や法改正など、諸条件を踏まえ見直しを行う。見直しについては、P l a n (計画)→D o (実行)→C h e c k (検証)→A c t (見直し)のサイクルに基づくものとする。